

日本を代表するランドアーティスト・大久保英治、宝塚で初めての大規模展覧会！
自然の素材を活かした芸術作品・400点以上が一堂に

おおくぼ えいじ

企画展「大久保英治 -山と川のはざま・宝塚の時間を求めて」開催

2021年7月10日（土）～ 8月22日（日）

宝塚市立文化芸術センター（兵庫県宝塚市武庫川町7-64）

宝塚市立文化芸術センター（所在地：兵庫県宝塚市／館長：加藤 義夫）は、日本を代表するランドアーティスト・大久保英治が表現する芸術作品約400点を一堂に展示する大規模企画展「大久保英治 -山と川のはざま・宝塚の時間を求めて」を、7月10日（土）～ 8月22日（日）の期間、開催いたします。



▲「宝塚・地の層」2020年

宝塚市内の様々な場所の土をもとに積層された時間を表現した作品



▲「折本 宝塚の川筋を歩く」（部分）2020年

宝塚市内の川筋の土と写真などで自らの足跡を表現した作品

大久保英治は、自然との共生をテーマに活動するランドアーティストで、日本はもとよりアメリカ、イギリス、イタリア、韓国、デンマーク、ドイツ、ポーランドなどの国際芸術祭や美術館・ギャラリーから招待を受け、個展・グループ展に出品しています。1985～1988年の3年間、宝塚市山本に在住するなど、宝塚市とゆかりのあるアーティストでもあります。

ランドアーティストとは、自然の中に身を置き、自然の断片を拾い集め、それら自然の素材を生かした芸術表現を展開する、いわゆる“大地の芸術家”です。古来、私たち日本人が持つ自然観や生活文化様式を意識しつつ、それに根ざした独自性の高い表現は、世界からも注目を浴びています。

大久保氏は、本展に向けて、2019年から宝塚を歩き、都市と自然、歴史に身を置くことによって暮らしと時間を読み解き、宝塚という世界を視覚化させるプロジェクトを実施しました。大久保氏のインスピレーションから生まれた作品を通して、日頃は気づかない、あらたな「宝塚」を発見できるはずです。

概要は次ページのとおりです。



▲本展でのランドアート作品発表に向け
宝塚市波豆地区を歩く大久保英治

撮影：原祥子

《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・清水・松ヶ根

TEL：06-6231-4426 FAX：06-6231-4440 E-mail：takarazuka@tm-office.co.jp



開催概要

展覧会タイトル	おおくぼ えいじ 大久保英治 一山と川のはざま・宝塚の時間を求めて
会 期	2021年7月10日（土）～8月22日（日）
休 館 日	毎週水曜日
開館時間	10：00～18：00（入場は17：30まで）
会 場	宝塚市立文化芸術センター 2Fメインギャラリー 〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-64 WEBサイト URL https://takarazuka-arts-center.jp
観 覧 料	一般（高校生以上）800円、中学生以下無料 ※障がい者手帳提示でご本人様、付添の方1名まで無料
問い合わせ	宝塚市立文化芸術センター TEL:0797-62-6800
主 催	宝塚市立文化芸術センター（指定管理者：宝塚みらい創造ファクトリー）
後 援	神戸新聞社



アクセス
QRコード→

見どころ

①日本を代表するランドアーティスト 大久保英治の全貌を明らかにする大規模展覧会

大久保英治は、1970年代から作家活動をはじめ、80年初頭からイギリス系のランドアートに触発されて、自然の中で作品制作を続けている、日本を代表するランドアーティストです。国内外のビエンナーレやトリエンナーレ、美術館、画廊で精力的に作品を発表し続け、日本国内のみならず国際的にも注目されています。

自然との共生をテーマのひとつとして、自然の中に身を置いて自然の断片を拾い集め、それら自然の素材を生かした芸術表現を展開する、言うなれば“大地の芸術家”。古来、私たち日本人が持つ自然観や生活文化様式を意識しつつ、それに根ざした独自性の高い表現を確立しています。

②新作を含め、総数400点以上の作品を一堂に展示

本展では、宝塚をテーマとした新作28点を含め、総数400点を超える作品を展示します。大久保氏の代表的な表現のひとつである石を使ったインスタレーションは見どころの一つでもあり、大久保氏自身が本展会場で制作するものです。また、大久保氏がライフワークとしている「日常の歩行」シリーズ、さらに日本人の文化ルーツに着目して創作した作品として、高さ172cmの亚克力ケースに約4万5千個のライターを閉じ込めた大作も展示。大久保氏の様々な作品を通して、今まで見たことのない景色を楽しめます。

③宝塚を歩いて生まれた作品で、新たな宝塚を表現

大久保英治はかつて宝塚市山本に在住しながら制作活動をしていたことがある、宝塚ゆかりのアーティストでもあります。本展に向けて2019年から宝塚市の各地を歩き、都市と自然、歴史などから得たインスピレーションを具現化して、あらたな「宝塚」という世界を表現しています。宝塚を歩いて集めた欠片が大久保氏の手によってどのように生かされ、どのようなアートになるのか。ふだん目にする宝塚の景色も、作品を通して見てみるとあたらしい気づきがあるはずです。



ランドアーティスト・大久保英治 プロフィール

おおくぼ えいじ

大久保 英治

(1944年～)

1944年（昭和19）兵庫県西宮市に生まれ、岡山県矢掛町で育つ。
1967年日本体育大学卒業、1975年京都教育大学養護教育課程専攻科修了。
1985～1988年の3年間、宝塚市山本に在住。

日本を代表するランドアーティスト（大地の芸術家）のひとりであり、これまで日本はもとよりアメリカ、イギリス、イタリア、韓国、デンマーク、ドイツ、ポーランドなどの国際芸術祭や美術館・ギャラリーから招待を受け、個展・グループ展に出品しています。物が生まれ、土に還っていく自然の流れの中で、物と物のある地点で結びつける「環流」という独自の思想を持っています。本展に向け、2019年から自身の足で「宝塚を歩くプロジェクト」を実施しました。そのなかで生まれた新作と、館内で制作するインスタレーション作品等、総数400点以上を展示します。



大久保英治（撮影：原祥子）

◆主な個展

- 1980年 「大久保英治展」 ガレリアグラフィカ（東京）
- 1983年 「Rysunki-Drawings」 ガレリアヴェルカ19他（ポーランド）
- 1991年 「静かな風」 イーストウェストギャラリー（ロンドン・イギリス）
- 1999年 「四国の天と地の間、阿波の国から歩く」 徳島県立近代美術館
- 2001年 「地球を歩く 風を見る」 銀座メゾンエルメス・フォーラム（東京）
- 2005年 「光・水辺の球-大久保英治展」 西宮市大谷記念美術館（兵庫）
- 2006年 「大久保英治-ボーダレスサイト/TOTTORI~OKAYAMA-」 奈義町現代美術館（岡山）
- 2011年 「大久保英治_あるくことからはじまる」 鳥取県立博物館（鳥取）
- 2018年 「大久保英治展 日常の歩行-伽耶六国から吉備へ-」 岡山県立美術館（岡山）
- 2019年 「大久保英治・環流-1980-2019-」 シアン美術館（ヨンチョン・韓国）

◆主なグループ展

- 1978年 「第12回日本国際美術展」 東京都美術館（東京）/京都市美術館（京都）
- 1979年 「第1回ジャパンアートフェスティバル'79」
国立国際美術館（大阪）/ウッジ美術館（ワルシャワ・ポーランド）
- 1987年 「日本インパクト・アートナウ」 韓国美術館（ソウル・韓国）
- 1993年 「第2回ヨーロッパ・ビエンナーレ」 ニーダーラウジッツ（ドイツ）
「90年代の日本-13人のアーティストの提言展」 ローマ市立フォルクローレ美術館（イタリア）/
デュッセルドルフ市立美術館（ドイツ）
- 1999年 「五感の芸術-その身体性の拡張」 クンストハウス（ハンブルク・ドイツ）
- 2000年 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2000/2009」 津南町（新潟）
- 2009年 「水と土の芸術祭」 新潟市（新潟）
- 2017年 「DNA、共存の方程式」 慶南道立美術館（チャンウォン・韓国）
- 2020年 「都市は自然」 セゾン現代美術館（長野）



大久保英治の考える「ランドアート」とは

欧米で生まれた自然回帰志向のコンセプトに大久保氏が日本の歴史や仏教的思想を組み入れ、日本的なランドアートを創生させました。1980年代初頭に「環流」という独自の考えを生み出した大久保氏は「物が生まれ、土に環っていく自然の流れの中で、物と物がある時点で結びつける(中略)古代人の想いを込めて」と記しています。大久保作品の基本は、キリスト教圏のランドアートの思想と日本的自然観と仏教思想をハイブリッドしたのですが、また一方西洋と日本の自然観や世界観の違いを表現しています。

そして近年、大久保氏は日本の歴史的な偉大な先人の足跡を辿り、追体験しながら作品を生み出す独特の世界を作り上げてきました。人類史という時間とその地域が持つ空間と場所性に向き合い、日本独自の民族芸術的ランドアートを生み出したと言っても過言ではありません。

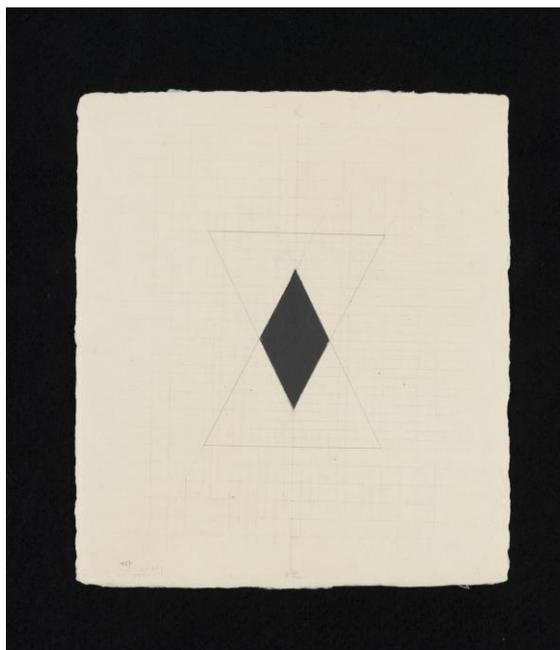
展覧会構成

第1室 天と地のはざま

過去の記憶を宿す自然石を積層させ、インスタレーション作品を形作ります。ランドアーティストとしての真骨頂とも言える芸術表現です。その空間に鑑賞者は身を置き、自然との対話をはじめることでしょう。本展のための新作「サイトシリーズ」も展示いたします。



大久保氏所蔵の五色石



「サイト 20201」 2020年

展覧会構成

第2室 山と川のはざま・宝塚の時間を求めて

宝塚の自然と大久保氏が対峙し、制作した作品が28点展示されます。個展開催までの1年半にわたり大久保氏は宝塚を歩き、宝塚の街や自然から得たインスピレーションを具現化した作品です。

南は武庫川河口から市内へとさかのぼり、北は香合新田や上佐曾利などの山間部から下って行きました。

山と川、内と外、過去の歴史と自身との対話から生まれた作品たちは、「環流」という独自の思想で読み解き表現されています。その地で暮らす人々が普段目にする景色も、大久保氏の作品を通してみることで、新たな気づきが生まれます。



「宝塚・山と川のはざま2」

2019年

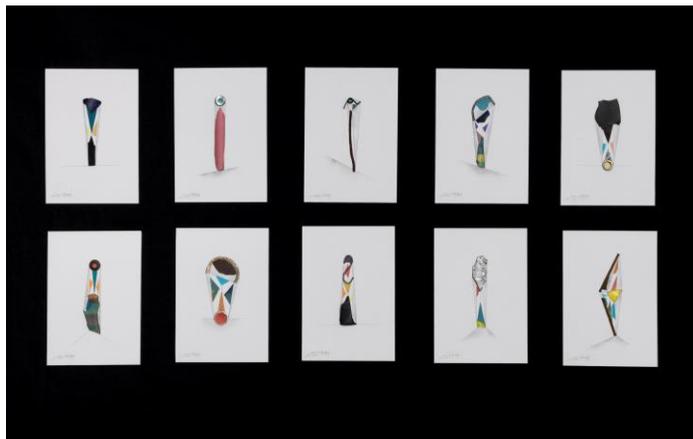


「折本 宝塚の川筋を歩く」(部分) 2020年

第3室 日常の歩行

「気づきを得るために歩く」という大久保氏が、日々歩きながら発見した打ち捨てられたものに、命を与え再生させたコラージュたち。そして10年以上作り続けている作品が、「日常の歩行シリーズ」です。その中から、宝塚を歩いて生まれたものを含む400点以上を会場に展示します。

さらに、2019年から始めた新たな挑戦となる作品、「うつろ・ふ」シリーズも展示します。



「日常の歩行」 2019-2021年



「うつろ・ふ TAKARAZUKA 2019-3」(部分)
2019年

展覧会構成

第4室 水の記憶

これまで大久保氏は日本人や日本の文化ルーツについて考えてきました。島国である日本に流れ着く大陸や朝鮮半島の東アジア文化の中に日本的な文化の痕跡を発見することで、日本人とは何かということを問うことに心を砕いてきました。海の彼方から漂着し水ぎわに流れ着いた文化を加工し、利用してきたのがハイブリッドな日本文化です。そこに着目した時、現在の私たちは何を思い考えるのでしょうか。

日本海に面する鳥取県の海岸線を歩き、拾い集めたライター約4万5千個を積層させた時間の彫刻は、自然環境破壊を感じさせます。作品の高さは172cm。大久保氏の身長と同じ高さのアクリルケースに封じ込めたライターは何を物語り、何を語りかけるのでしょうか。



「水の記憶」 2011年

会期中の催し

◎ 出品作家によるギャラリートーク

展覧会初日に、大久保英治によるギャラリートークを開催します。※要観覧料

日時：7月10日（土）14：00～14：30

会場：宝塚市立文化芸術センター 2階 メインギャラリー

◎ 「宝塚の時間を求めて」大久保英治×加藤義夫（宝塚市立文化芸術センター館長）

大久保英治と、宝塚市立文化芸術センター館長・加藤義夫の対談を行います。

同日に開催するギャラリートークにもぜひご参加ください。

日時：7月10日（土）14：45～16：00

定員：20名 ※要予約、要観覧料

会場：宝塚市立文化芸術センター ガーデンハウス

※入場時に、展覧会の当日券かパートナーの会員証のご提示が必要

◎ パートナーズサロン 大久保英治 講演会

パートナー（当センターの有料会員）限定で、出品作家によるトークサロンを行います。

作家本人が、アートや制作に対する思いを語る濃密な時間です。

日時：2021年8月8日（日）14：00～15：30

定員：20名 ※要予約、パートナーのみ参加可能（当日入会可／入会金：2000円）

会場：宝塚市立文化芸術センター ガーデンハウス

※入場時に、パートナーの会員証のご提示が必要

※パートナーについて、特典などの詳細はセンターWEBサイトをご確認ください。

宝塚市立文化芸術センターWEBサイト

URL <https://takarazuka-arts-center.jp>



<イベント予約方法> ※受付開始日：6月10日（木）10：00～

●電話での申込み：0797-62-6800（10：00～18：00、水曜休館を除く）

●メールでの申込み：event@takarazuka-arts-center.jp

①イベント名 ②氏名 ③連絡先 ④宝塚市立文化芸術センターの個人情報の取り扱いに同意する

※以上の情報を記載の上、件名を「〇月〇日のイベント申込」として送信ください。

※宝塚市立文化芸術センターの個人情報保護方針は、以下の通りです。

https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/041/163/tac-policy.pdf

《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・清水・松ヶ根

TEL：06-6231-4426 FAX：06-6231-4440 E-mail：takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センターWEBサイト

URL <https://takarazuka-arts-center.jp>



◀アクセス
QRコード

